

ミナミコアリクイの繁殖

○下辻明音, 田島俊一郎
(横浜市立野毛山動物園)

野毛山動物園で飼育しているミナミコアリクイ (*Tamandua tetradactyla*) No. 1 : 雄と No. 2 : 雌は 2022 年 4 月より繁殖に向けて同居を開始した。No. 1 から No. 2 への乗駕は確認されたものの交尾は確認できなかった為、同種が夜間活動する種であることから翌年 1 月より夜間も同居を行った。2021 年 6 月より継続して行っている血中プロゲステロン濃度の測定により、No. 2 に妊娠の可能性があると判明、2023 年 5 月 15 日にエコーでの検査を行い、妊娠していることが確かとなった。プロゲステロン濃度の数値より夜間の同居を開始した 1 月頃に妊娠した可能性があり、同種の妊娠期間が 150 日前後であることから 6 月中旬を出産予定とし、出産に向け No. 2 の寝室の整備を行った。

6 月 6 日の朝 8 : 08 に産床での出産を確認した。No. 2 は陰部から出ている臍帯に気を取られている様子であり、時折子を舐める程度だったが、出産の約 3 時間 40 分後に授乳が確認された。その後 17 : 00 頃にも再度授乳を確認し、育児をしている状況に鑑みて人工哺育の必要性がないと判断した。また、No. 2 は産床から 4 日間出てくることはなく、目の前に設置した餌は採食するが排便は確認されなかった為、産後 5 日目に子を背にしがみつかせた状態で No. 2 を寝室の床に下ろし歩かせ、排便を促した。その日以降 No. 2 は夜間活動するようになり巣外での採食、排便も行うようになった。

子の体重は増加していたが離乳期にあたる生後 60~90 日齢の頃になっても子が乳以外を口にすることは見られなかった為、離乳の進行を促すこととした。生後 115 日齢より嗜好性の高いヨーグルトを利用し離乳の進行を促した結果 128 日齢から成体と同様の餌を採食するようになった。子の便は授乳のみの期間から 143 日齢までは良好であったが、餌を増量した 145 日齢以降から過食が原因と思われる軟便が続いている。

以上から、今回の繁殖において夜間の同居を行い交尾、妊娠に繋げたことと離乳の進行を促せたことが評価できる点と考えられる。今後は子の過食を防ぐ為に給餌方法を見直していきたい。